

科目名 看護過程展開実習 時間割表記名 看護過程展開実習	配当時期 2年次6月 単位数 2単位 時間数 60時間(10日間)	講義担当者 高木 佳寿美
事前学習内容 実習要項に準ずる		
科目全体のねらい・授業目標 【実習目的】 看護の対象である人間を理解し、科学的根拠に基づいた看護実践の基盤となる能力を獲得できる。 【実習目標】 1. 受け持ち患者を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる。 2. 受け持ち患者の看護問題を明らかにすることができる。 3. 受け持ち患者の日常生活援助を安全に実施できる。 4. 実施した看護の評価・考察ができる。 5. 受け持ち患者との人間関係を構築することができる。 6. 看護実践を通して、実施した看護の意味づけができる。 7. 保健・医療チームの一員としての自覚を持ち、専門職業人として望ましい態度がとれる。		
DPとの関連 DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。 DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。 DP4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割を理解し、多様な場で生活する人々の生活の質の向上のために多職種と連携・協働する意義と方法を理解することができる。 DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる。 DP6. 専門職業人としての責任を自覚し、広い視野にたつて物事を考え、自己研鑽することができる。		
授業の流れ 本実習では、ロイ適応看護モデルを用いて看護診断過程を学習する。患者を受け持ち、4つの適応様式に沿って行動のデータを収集し、行動のアセスメントを行う。そして、看護診断を確定するために必要な情報を追加しながら、関連因子、危険因子を特定し、看護診断を確定する。個別性に応じた看護計画を立案し、受け持ち患者の看護を実践する中で看護診断過程を学ぶ。 本実習は、臨地実習8日間、学内実習2日間とする。		
評価 ルーブリックに沿って評価する。		
使用するテキスト ①系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ③ロイ適応看護理論の理解と実践 医学書院 ④ザ・ロイ適応看護モデル 医学書院		

⑤看護過程に沿った対症看護 学研

⑥看護診断ハンドブック 医学書院

その他、看護実践に必要なテキスト

参考文献